

畧譜

四

月
下
藤

二百十一冊白

十部
現共土

内閣文庫			
五六函	二二冊	三六〇八號	和書類

一九一

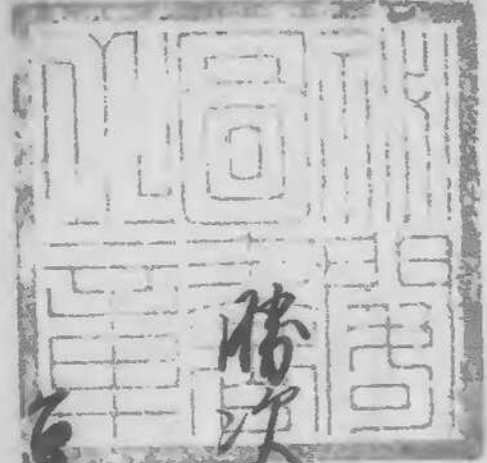


内閣文庫	
番號	和 30080
冊數	211 (91)
函號	156 17

共十二



137
573



長徳院印

因友

有原

三七百石

及 中 有 在
銀花菱

用友合身馬出守

乙之物

廣長年中入家

石印院殿(初見)中世の日本九年



六百石を領す。神代加納也。寛永
九年二月由是令其後也。以十年
二月より加納二百石を令七百石。病死
。延宝三年十二月日没也。以七
の月より死す。其子量信小
るに也。

勘右衛門 幸師

晴良

夫 和名丹下幸良に男

可成り。○其子より其後也。
以十年より其後也。○以十年
より其後也。其後也。○其後也。
其後也。其後也。其後也。

晴平

幸師

夫 和名丹下信与義幸に男
之稱。○其子より其後也。其後
也。○其子より其後也。其後也。

名刺

のり

初納 喜保三〇年三月五日
初納。之。又。之。年。之。事。田
あ。初。あ。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。

大納之納。之。之。之。之。之。之。
大納之納。あ。あ。あ。あ。あ。
之。之。之。之。之。之。之。

今年師 二

忠儀

初納

宝曆六年次男初納。安永八年
八月八日家落。同八年八月一日継
天保二年五月吉日初納。出納。
同年年同月吉日初納。初納。

日本国文学会館 三覽五〇〇。

同八年十二月廿日

表君附

文化七年二月廿七日 宿元 敬啓

同書 表君 附

表君 附

[Faint bleed-through text from the reverse side]

大猷院 敬啓

同表

五干石

藤原姓

女紋

中書省 印

同表 志君 同表 三男

表君 附

字 卿

志君

表君 附 七年二月廿七日

大猷院 敬啓 初九日 同八年二月廿九日

之志とかがうるりしき

木下代天清江流し七秋の旨を

刀貝録献しけだのるふといひ

し月見。二條三年叙爵。いひ

十月廿日

卷の院叙し格との叙作しき。

考安之年中止性但書既作れ

。し側令也。多知行み千石と

し年ふ。ぬらそく。諸名重。

考合。之禄三年三月十七日死す

東山石川為存年し。録

○寛文二年七月廿

○神乙之禄三年
考りし之れ年又

○修立

忠道

守右馬

忠権

場原水屋

天和二年十月廿日初見。之禄

二八八月廿日各得考合席。

し年録附加由。し年少書

法合。病出叙。二條六年正月

去月中川行書。享保三年

病免。以本年八月二日死。年七。未
以年一。歿

休州

彈正 宇部 四九 五年

享保二年八月廿二日初見。以是子
國月九日家結。以享保二年八月廿二日
續所加也。以享保二年八月廿二日
死。年歲以是子歿

忠義

出雲守 十次郎 貞時

夷内者十之忠志原三男
享保十六年十一月九日家結。以是子
以是子初見。以享保十六年八月廿二日
公事。陽見也。之文元年十月廿
以是子初見。以享保十六年八月廿二日
小直經由也。貞正二年八月廿二日
死。享保十六年八月廿二日歿

出見

後高弓 小高弓 十次郎

寛延三年八月廿日家督。同奉
十月廿九日初見。同奉二年二月廿二日
大老院敷十七日。同奉三年初見
同奉四年六月廿二日。同奉五年六月
年七月廿二日。同奉六年八月廿二日。同奉
永六年二月廿二日。同奉七年二月廿二日
同奉八年二月廿二日。同奉九年二月廿二日

百人組。同奉九年十月廿二日。同奉
同奉十年二月廿二日。同奉十一年二月廿二日

同奉十二年八月廿二日。同奉十三年
同奉十四年八月廿二日。同奉十五年八月廿二日

同奉十六年八月廿二日。同奉十七年八月廿二日
同奉十八年八月廿二日。同奉十九年八月廿二日

加賀守 地之師

出見

同奉二十年八月廿二日。同奉二十一年八月廿二日
同奉二十二年八月廿二日。同奉二十三年八月廿二日
同奉二十四年八月廿二日。同奉二十五年八月廿二日

○寛政十三年十月廿五日
○寛政十三年十一月廿四日
○寛政十三年十二月廿四日
○寛政十三年十二月廿五日
○寛政十三年十二月廿六日
○寛政十三年十二月廿七日
○寛政十三年十二月廿八日
○寛政十三年十二月廿九日
○寛政十三年十二月三十日
○寛政十三年十二月三十一日

少佐 猪馬出依。

忠英

恒一郎

○寛政十三年十二月廿七日
○寛政十三年十二月廿八日
○寛政十三年十二月廿九日
○寛政十三年十二月三十日
○寛政十三年十二月三十一日

○寛政十三年十二月廿七日

若君 猪馬出依

有他流破



日友

覺

弓式百依

友系姓

家紋

下り有尾
丸田十之字
乃七之相

之祖石寄常見山三所五所之代

帝見他在馬車免長男

内友

新七席

由

海人々紀伊國小石在出守之母方母

新刊清溪院殿御書中未定院殿へ
奉公事見と申在り申儀と云々
因有とありて心之儀十六年六月
十三日紀伊殿へ奉公事見申儀
正徳六年正月廿八日清溪院殿御書
○享保元年十月廿八日清溪院殿御書
年十一月二日石川院殿御書
切米貳百俵。同六年八月廿九日
吉山院殿御書

巫久

吉山院殿

清溪院

享保六年十一月九日在籍。享保六年
十一月廿八日大津藩。安永七年十二月廿日
病歿。享保七年十二月廿日
死。享年三十九歳。葬吉山院。

巫至

知事

文之巫

享保六年九月廿六日。享保七年九月廿六日

養子にたりし者家にてり家
と云ふは田舎とある者。元和二年
七月廿二日死文を無想臥胎の助へ誦
式に違へし事助の初りて死
を絶

利の助

定恒

明和二年九月音日男惣領。口六年九
月廿日初見。お水七年七月十九日

大正書。安永九年音三月廿九日
口七年三月廿日火全惣子。口初年
中書初年三月廿九日

車屋天次

因友

若原姓

三石^石雅宗

家紋

下り直丸
三ツ右

因友新右衛門重政男

共五書

勝手

手取の衣と絶つて糸の付列大草
材少く喧人とす捕り付る并成の尉

ももろ夫の語の長次松平と野分小
舟を遠列掛川とくろ名、度尾次
約本陣、あろ名、その後、度尾、度尾
越へ、名、度尾、八年、正月、日、死、六十
二年、三列、芳名、村、以、地、寺、く、葬

改勝

九年

松平と野分、は十八、集り、時、小田、原、涼
へ、お、岩、陣、城、責、の、列、大、心、破、隙、へ、入

早く、志、の、故、り、せ、り、ふ、は、国、を、系、し、合
戦、の、時、は、仕、初、免、ら、れ、く、そ、人、時、後
或、者、目、小、合、時、を、り、之、は、目、小、合、系
和、泉、ち、り、本、志、度、も、あ、人、あ、り、を、力、并
は、り、の、祇、二、ヶ、系、原、の、柄、あ、り、く、り、時、も
り、り、ち、矢、執、と、ゆ、り、度、後、大、須、之、致、仕、有
し、く、大、坂、あ、り、陣、へ、出、外、年、時、合、戦
群、は、け、時、を、人、名、不、言、死、を、成、衆、集、人、へ、
の、員、ち、り、ゆ、み

東照宮へしししし大綱之殿より
常しししし加増石石石石石石
二年十月廿日死年七十二歳

改修

た七

東照宮よりしししし祖母養子ふふふふ
しししししししししししししししししし
しししししししししししししししししし
大坂よりしししししししししししししししししし

しししししししししししししししししし
殊絶とゆふ

石垣院殿より代お秩百石石石石石石石
しししししししししししししししししし
とすすすす。ししししししししししししし
八月廿日死年八十八歳年法正寺小僧

修九集

た七

東照宮よりしししししししししししししししししし

成威

本名

東照宮より戸中城を討つ。慶安二年同月廿八日死。字の宗

成忠

本名

大猷院殿時代。本姓組。病死。孝文七年四月廿二日死。享年四十九。正年一歳

正房

在七 六郎左衛門

本名

孝文七年春子。同年六月廿一日。小姓組。延宝六年二月廿九日死。享年七歳。正年一歳

為青

在七 七次郎

延宝六年七月廿二日家落。之禄十一

年二月十九日行書院書。室永六〇
二月九日朔。行書。以六年二月
廿一日行書院書。正德元年十月
七日病歿。享保十年。以行書。以
十三日。以行書。以行書。

九七 九七

尚庸

享保十年七月。日家。以九年
十月。以九年。以九年。以九年。

享保十年十月

石大。以九年。以九年。以九年。
。以九年。以九年。以九年。

大綱。以九年。以九年。以九年。
。以九年。以九年。以九年。

中。以九年。以九年。以九年。
。以九年。以九年。以九年。

。以九年。以九年。以九年。
。以九年。以九年。以九年。

後醍醐天皇御代

因友

友成

高百保

友成

りる者
死因十子

因藤十右衛門正廣氏の子孫因友

其子正次男

因友

江市郎

延應二年十一月廿七日因友百保推石

○寛文十年二月毎日大侍者加藤百
六孫儀二百石小出。天和三年二月
毎日知行亦付並石倉貳百石石倉
り道田米百俵下道在志行
二年三月以先少元大侍者。貞享
二年七月十日死約也。以享年小孫

市十郎

白

貞 因友 信長孫也 兼休 主行男

貞享三年二月春子。以年十二月
十日家傳。享保七年六月廿九日死
以享年小孫

信市郎 石馬次郎

白

貞 因友 常以師之原男
享保六年二月七日春子。以七年二月
十日家傳。以七年四月廿四日家傳
人組。享保三年七月六日小孫

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

清康君



同友

友原姓

三七百五拾石

友紋

藤友在

石原進義清三男十三郎一四番

婿男

十石集

正統

清康君入身友西一山軍政号初

白旗

十右衛門

原忠元

東照宮へ奉仕して西軍役に勤

白旗

十右衛門

物倉少将として西軍に勤

酒井河内守重忠の末裔として

軍役に勤

武田信玄の末裔として西軍に勤
。元和七年五月廿七日死す
。享年九十九歳
。江戸市に長身極等と稱す

相次

十右衛門

美濃田久助未詳

吉子存信（大書）大坂西軍に勤

。万治三年六月病歿。享年三十二

。十二月廿七日死す。享年九十九歳

乃ふか様くそまひ合七百六
十石高にぬりひ九月十日か様の
口書あくと下らふ。之福十一年
七月より唯今進出致前のか皆
未地くかへ下らぬ。同十二年
九月廿日而此口書由門書く。此
口年宜九月十日そまひあは
下らぬ。この腹まふくそま
まは同月と作付く。まは同月

白根百石様様をまふ。同年
三月廿八日布衣の同年六月廿
七日老免。此永年六月廿八日
死七年八月廿一日すくそま

傳子師 久之師

貞直

夫此の末を又李子男
之福十一年七月廿日舞卷子。
同年十二月廿日すくそま

丁酉年七月二十日卒。年八十八。

事師

次親

庚子 石亭子 支那 羽衣
宣統元年十一月廿日 卒。年八十八。
高保八之 十月廿九日 初見。日干
介。日干。廿二日 初見。日干。初見。
宣統元年十一月廿二日 卒。年八十八。
用及教。日干。初見。日干。

日干八月廿九日 卒。年八十八。
日干八月廿九日 卒。年八十八。

數馬

次賢

宣統元年八月廿九日 卒。年八十八。
日干八月廿九日 卒。年八十八。
日干八月廿九日 卒。年八十八。

貝榮

丁酉年八月廿九日 卒。年八十八。

享保十八年九月廿一日嫡孫水紀
。寛保元年九月廿一日初見。
天明三年七月廿一日卒。以三
年二月九日得書信為。あ水三
年十二月廿七日病歿。以三年
甲子二月二日死。守家門以子孫

貞興
傳中師 飛松

安永三年四月廿一日卒。あ水

九年三月廿九日卒。信由。
丁卯二月廿九日卒。あ水
以年以葬

貞温
飛松 傳中師

丁卯二月廿九日卒。あ水

清康長印

田友

藤束姓

高式百係

在紋 降友尾

田友友云清貞義男

正繼

十右建

清康居一列小正十右建

正廣

十右建

唐忠君 一列ふとひくま仕
東照宮

正統

正統

東照宮神代正統の公。御令ふと
ひくま仕。正統七年三月廿二日死。葬九条

東照

正統

東照宮

正統元年。唐長十九年
大坂冬。御令ふとひくま仕
將門内通。御令ふとひくま仕
陣後。城別。依。正統元年六月十日
死。享年六十

東照

正統

寛永元年 家名

甲子年

相次

大猷院殿より

大猷院殿より 大猷院殿より

徳孝。明治二年二月病歿

。寛文二年死

市丸島

台次

大猷院殿より代大猷院殿より。孝女三
年同古月女首死市ヶ長正光
心身程寺より葬

市三郎

正由

夷内友

正由

大猷院殿より

常憲院殿より代々より少信信。

大和三年七月晦日死古丁衆

以手... 疾

源六郎

正伝

疾之并三郎之通其男
春子。元和二年十二月十日
疾。元福二年六月十九日
元方治納戸。寛永元年十二
月廿二日疾。元福二年三月

女六日元方治納戸。享保二年
十月廿一日統小春病。元亨
九年四月廿二日死。年八歳。幼名福
相。年十一歳

正伝
疾之通

市丸丸 疾之通 元福三年

享保十二年七月廿二日
元亨元年七月廿二日
元亨元年七月廿二日
元亨元年七月廿二日

人献院故

因友

友原性

在唐 少者九
六七相

因友共思

共在染

志心

唐安元年^上足与思云清而良
志心百依之用百依依知。

半人組。病死。元禄元年
死惠光寺小葬

白粉

長生坊

元禄元年十二月廿五日在坊。日
六年二月十九日半人組。日十一
年九月廿二日死。口与。蘇

某

長生坊

春又某名不知。此所由方物
。或永六年正月廿二日死。是
其子也。故古人在其前。其
相和死。其後。其子。其和
乃。正月。小葬。其。其死日
年七月。其死

正育

傳三郎

夫内友共右馬出心二男
元禄十一年十一月廿八日家終。
正育曰子七月九日少平人死
。享保九年十一月廿九日
長福君附。享保十年六月十九日
死附。正育曰年二月廿九日
病死。正育二〇七月廿九日

一後不重遺文。日六年十月
朔九日七歳に氣日等ノ疾

正傳

正傳

享保十一年十一月廿八日
。日中九年九月廿八日公次上太
可推不之取之為相成相有
。病死。正育六年十二月

其七十九年。以九年十二月十
五日。初。廢。其。為。以。初。元
九。月。以。自。死。中。公。氣。以。多。後

白方

二宮右衛門 龜範 刺殺 隆延

四初元。以。同。年。三月。以。六。日。家。終。
以。八。年。十二月。以。女。七。日。半。人。終。
安永七年十二月。以。女。六。日。病。死

○首。以。二年。十月。十一日。以。之。大。的
可以。終。下。以。六。年。十二月。以。女。一。日
終。以。七。年。九月。以。女。七。日。刺。殺
○文。化。十。三。年。十。四。年。十。五。年。十。六。年。十。七。年。十。八。年。十。九。年。二十。年。二十。一。年。二十。二。年。二十。三。年。二十。四。年。二十。五。年。二十。六。年。二十。七。年。二十。八。年。二十。九。年。三十。年。

白方

龜範

其。八。十。年。十二月。以。女。六。日。家。終。
以。九。年。六月。以。女。六。日。劍。術。上。達
五。十。五。

友有以叙

因孫

友系姓

家後 子有友是

先祖不從

日友不存也

忠親

延至二年新紀也始方。元
祿二年二月老免印中甲刻

因

友

友有以叙
因孫
友系姓
家後 子有友是
先祖不從
日友不存也

一門也死

守正活

忠臣

文保二年三月廿八日家督出陣
方。日八月十三日庚午中野
西園寺頼政。日十二年八月
廿二日死。其子。家永。日
十二月廿二日。其子。家永。

太平治平八日名。其子。奉行。
日十年七月廿一日死。小。日
其子。源。其子。源。

忠臣

守正活

享保十年三月廿一日。日
十二月廿二日。其子。源。
其子。源。其子。源。

○寛保三年十一月廿六日代友
○延享元年秋後國備京郡
○代友之長子能く因同初
○能地系之地惣互列 寺百
○後町歩余新 寺及之互
○新田代通作并之 寺又
○永享元年より年々 寺取箇乃
○丁方一と寺屋納入。寺屋是
○年別辨入 未納の寺は二列

○長所者正徳川用 寺獲火時
○順式。宝暦十二年八月大坂
○中代官初り節
○桃園院寺法主 寺有 寺
○寺々々寺信川用 寺人寺或役。
○宝暦十三年秋 寺人 寺別
○寺名大坂寺寺比 寺川
○寺貴火明 寺。明和七〇
○七月廿二日 寺免 寺寺或役

○同八年十一月廿九日死七十一
同寺小葬

忠臣

又十師 孫右衛門 守之丞

之文六年十一月廿三日幼卒。
至曆二年十二月廿八日病歿。
○同和六年九月十八日幼卒。
○同八年十一月廿五日家督。

同七年二月廿七日巡行。同日
口之七月廿八日幼卒。至政
十年二月廿八日老免。後保
後役。同和六年四月廿八日死年
九。葬同寺小葬。

忠臣

分一物

同九年十一月廿八日幼卒

種次

織部

初武田信玄が時教に在滅亡後
天正十年

東照宮中聖國に又と名を奉る

此大なる書なりは百名。唐長
十九年六月十日死す年九歳

種昌

長石寺

長石院殿あり

大敵院殿に代て大なる書。寛永三
年十二月十日地所不詳長石寺と
す。す。此てもち由の政。寛永
十年並加杖式百名。口千四子
二月十九日死す年七十七。市を長
長龍寺に葬

新清

檀右衛門

大沙番。寛永十三年十月廿一日
奉召。明治元年八月廿一日
組頭。同月廿二日廿六日加授
式百石。寛文十二年十二月廿
大坂在番。山崎。死。享和七年
日寺小葬

種冬

檀右衛門

部右衛門

万治元年六月廿初見。寛文十三
年六月廿一日。山崎組。同月
七月十二日。又。越八百石。自
六百石。家督。式百石。同。同
将利。分。同。寛永七年。同月
之。自。死。同。寺。小。葬。

種元

種右馬

室永六年四月廿日書院番
○三月廿日家信。正徳
二年八月九日病死。享年
年十月十八日書院番。
至曆三年四月廿日老免後
令成役。同年四月廿日死
享年之來同寺小蘇

種丈

一學

實 為湯去初盛朗次男
享保十二年十二月廿日年養子
○同丈之八月廿九日不性組。
元文二年閏四月廿二日而後傳。
元文三年
○四月廿日家信。同元年
女日死 年一歲口舌不蘇

柱輔

玄著

至曆元年正月三日卒。以年
八十五。有為。其性坦。以十年
正月朔日。

大律師所附。國一〇八。以首。以先
勅。以十年正月二日。病死。

大。以十年正月七日。病死。其改
十年八月。十日。九。年九月。日。

種茂

玄著

至曆元年正月七日。病死。其改

十年正月二日。病死。其改

十年正月七日。病死。其改

十年正月七日。病死。其改

十年正月七日。病死。其改

種英

玄著

實山故金源所維稅曹

貞安九年六月廿六日卒。享年六十。

同十年二月廿六日卒。享年六十。

十月廿二日卒。享年六十。

金源

種德

貞安九年六月廿六日卒。享年六十。

貞安十年二月廿六日卒。享年六十。

同十年二月廿六日卒。

菱の種



内藤

友系姓

高三郎種彦

水紋 友系
花菱

内藤右衛門種昌男

久五郎

種長

慶安四年十一月神田江戶殿一以
帳面より百石の札に去儀由

○方治平年百由小納戶。意文
九年七月由小納戶。意文九子
八月由小納戶。意文九年九月
一統小納戶。之福九年八月廿
死字之氣印由小納戶。意文
中東岳院。一。意文

志記師

村重

實 別江島宮殿 莊永十云湖平成以男
之福八年十月在信。以十年
八月廿一日死。字之氣印由小納戶

織部

村重

實 莊永市五馬。意文
卷子。之福十年十二月廿八日
。意文十年八月廿八日在信

○享保十六年十月廿五日初見。
○享保二年六月廿二日死。年一歳。
口年一歳

持重

五十九歳

享保十六年十月廿五日初見。
○同日廿六日大に毒を食ふ。
○享保二年九月より大に病を食

米田切米の収入。宝暦二年
九月廿一日の始。明和二年
八月廿二日死。年一歳。口年一歳
一 明和二年二月に毒中

禁裏の書信の勅の付
禁裏の書信の勅の付
又卷末の全に投淨紙



持儀

久三郎

江府小室のく右時允

其の二上より三より多岐多岐

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

東照



内藤

高田百穂

友系姓

水紋 下り有花
六七桐

内友新右衛門勝平次内友
九郎左衛門守忠領

初六在馬

右行

祖父初右衛門勝平次

東照宮

刻ふとくし乳指とく
尾原徳田一威やとくし鹿鹿死
とくし沖城探しのかたり
まの指や母とくしとくし
ゆくとくし中まより山平後地
とくし山陽掛とくしとくし
ちゆき母とくしとくし乳指と
とくしとくしとくしとくし
とくしとくしとくしとくし

石井は徳とくしとくし
又三年二月徳田は徳とくし
とくし山陽院由武百儀と徳と
とくし三年山陽院由武百儀
○山八年りゆえ山割山用作
とくしとくしとくしとくし
とくしとくし二年十月一日
牛山法山寺小蘇

寶永六年四月廿七日
○同年十二月廿七日
享保元年四月廿七日
○二年四月廿七日
○三年四月廿七日
○四年四月廿七日
○五年四月廿七日
○六年四月廿七日
○七年四月廿七日
○八年四月廿七日
○九年四月廿七日
○十年四月廿七日

元保

新大右衛門 晴右

享保元年十一月廿七日
○二年十一月廿七日
○三年十一月廿七日
○四年十一月廿七日
○五年十一月廿七日
○六年十一月廿七日
○七年十一月廿七日
○八年十一月廿七日
○九年十一月廿七日
○十年十一月廿七日

元豊

新大右衛門 隆三郎

明和六年六月廿七日
○七年六月廿七日
○八年六月廿七日
○九年六月廿七日
○十年六月廿七日

○安永二年三月廿二日山書信後由
○白河三月廿七日病免。夫の六
年分以女日記山書信者。寛政
六年二月廿一日山書信与島村
河村下。以八年三月廿二日病免

○山書信後由
○白河三月廿七日病免。夫の六
年分以女日記山書信者。寛政
六年二月廿一日山書信与島村
河村下。以八年三月廿二日病免

廣忠
内藤
友東
家督
五三洞
叔美

内藤

友東

友東

家督

五三洞

叔美

山書信後由

末

山書信後由

叔美

廣忠
奉仕
毎夜
軍中
の
休
息

二十六年軍中乞ふもりし
くしき夜に神威ありし
後忠をりし漢文武通師ふ

系

忠六代馬

忠統

忠次

忠六代馬

忠統

信守大納言相宣乃少仕大番頭

○孝文十七年七月九日死

久保

↑ 忠吉

金丸

忠清

東照宮へも出で道中忠告ありし

を多し。長久寺陣の節

休まず首納め侍らざる

場石川管助くもとぬ

少子傳。日本八年小田原を
侵す。使者。

石田院殿。諸君。此の書は

天正十八年十一月八日

七条小石川。書院。一葉

石田院殿

石田

北の上

此の書は。相違。石田。天正

二年

石田院殿。此の書は。石田

史。此の書は。石田

天正十八年。石田

死。石田。石田

石田院殿

石田

初。石田。石田

或子石乃因干石家持二男市
之能入六百石之男之助入之
分知別子石乃因干石家持二男市
之能入六百石之男之助入之
大猷院致行代大之番。竟永十
年並加秩貳百石合千二百
石。正保三年正月廿二日二条
左番少之く死早七歳以也

素

市之堅

其子永十一年正月廿二日六百石
分知。其乃絶の中分知の
行早下也

忠

金丸

竟永十一年九月廿日初見。正保
三年正月廿二日

大津藩。寛文六年二月八日
日垣改。以七年六月日垣
刑部左輔死。以山内播磨守
山内右衛門守。以山内左衛門守
山内左衛門守。以山内左衛門守。
正宝二年十一月廿四日。正宝二年
少。死。口。守。上。録。

命命

忠

寛文六年六月廿七日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死
正宝二年十一月廿四日。死

忠郷

右大臣 賴母

元禄十一年七月九日家督。以子
了守子不初見。享保二年
十月廿一日書信由。室屋に
年八月廿五日妻子由忍取金之
所取心ふく口地未忘告九部
一紙付門人。乃。年八月廿五日書
右殿之れ少書信又通奉口人

白くし方下。右。先。口六
年十一月廿九日死。守。口。口
寺。山。葬。

忠福

金三郎

享保三年正月。初。之。室屋
二年八月廿五日。口。口。口。口
年。口。口。口。口。口。口。口。口

少舟日記の序
寛政十三年十一月廿二日

田原助 忠著

忠著
寛政十三年十一月廿二日
田原助 忠著
寛政十三年十一月廿二日
田原助 忠著
寛政十三年十一月廿二日

九月廿七日
九月廿七日
九月廿七日

田原助 忠著

忠著

九月廿七日
九月廿七日

九月廿七日
九月廿七日

一〇〇年十一月五日中里宗子
一〇〇年十一月五日宗子宗子宗子

宗子宗子宗子宗子宗子宗子
宗子宗子宗子宗子宗子宗子
宗子宗子宗子宗子宗子宗子
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

大秋

因友

若原性

若原性
若原性
若原性

因友子宗子宗子宗子

平丸集

重親

慶安三年九月廿一日
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

年三月廿九日死。以壬午年病歿。以乙酉年正月廿九日死。以壬午年病歿。通照院新免の事。小治

成徳

長右衛門 平右衛門

寛文十三年三月廿九日歿。元禄六年正月十九日歿。以乙酉年正月廿九日歿。以乙酉年正月十九日歿。以乙酉年正月十九日歿。

享保三年八月廿九日歿。享保三年八月廿九日歿。享保三年八月廿九日歿。享保三年八月廿九日歿。享保三年八月廿九日歿。

一 葬

忠七

長右衛門 権左衛門 宗平所

始利賢 庚 世友左衛門 長右衛門

享保十一年四月廿日卒。以
介員九日少人組。元文三年
四月九日病歿。以年九月廿日
死。葬於小森。

表部 彦作

忠恒

作利慶

美 世友左衛門利恒。男
元文三年十二月廿日卒。葬於小森。

之平。以年九月廿日卒。以年
九月廿日病歿。以年
正月廿日死。葬於小森。

表部 彦助 致子

忠恒

初利慶

美 世友左衛門利恒。男
元文三年九月廿日卒。以年
正月廿日卒。同八年七月

五日病死。○同十二年十二月廿九日
 ○同十二年同十二月廿八日病死
 一 音の心は二十二月廿九日次男大寺
 良徳候大正書讀道深九郎の
 孝子を以て同十二月廿七日右
 海江の妻孝子大寺長書讀九
 右道深九郎の弟の二月八日
 奔仕の首お申年作候九郎の
 若相候有と道同の二月廿九日

作候道深九郎病死

正徳院行代

田友

友系姓

馬千五百張石

在信

五三桐

田友右系進義清乃其田友

秀一郎平威次

梅造守正其郎 筆休

重校

元和九年

忠求

九全訪 九全師

嘉永六年四月廿七日
忠求之旨依。同七年三月廿六日
家督。享保九年十一月廿二日
元服。同十年六月廿九日
久信番。延享二年三月廿九日
大須之助。享保元年二月廿九日

忠彬

新助

享保元年十一月廿九日
忠彬之旨依。同七年三月廿六日
家督。享保九年十一月廿二日
元服。同十年六月廿九日
久信番。延享二年三月廿九日
大須之助。享保元年二月廿九日

忠良

侍藏

忠良之旨依

幼名 源太郎

河代督の長史より河代所
。あゝあゝの心月事なるに月を先
。衆

まゝに申

忠
忠

天小治政より萬里
。あゝあゝの心月事なるに月を先

。あゝあゝの心月事なるに月を先
。あゝあゝの心月事なるに月を先
。あゝあゝの心月事なるに月を先

。あゝあゝの心月事なるに月を先
。あゝあゝの心月事なるに月を先
。あゝあゝの心月事なるに月を先

Handwritten text on the left page, appearing as bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

Handwritten text on the right page, appearing as bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

田舎のあつたむら

のあつたむら

正名

桂井城前町正名

橋井城前町正名

とりのり

後一橋町正名

正名

正名

桂井城前町正名

初代田代正名

列長久へ

正名と須賀股

正名と須賀股

の正名と須賀股

正名と須賀股

東照宮御威あり

昔より今も

心長

梅庵 梅庵

父より子に伝へし徳也。戦場乃
可なり心を

志無き者行能ふ事少し。之れを
故心の中なる事なり。恐るる
心定まらざるは、心長ハ

而して、此乃西和隆乃以、梅井
の城にて、きほ一梅井、梅井。度長ハ
名無き者、依りて、心長ハ、
。心長ハ、心長ハ、

心長

梅井 梅井

心長ハ、心長ハ、心長ハ、
心長ハ、心長ハ、心長ハ、
心長ハ、心長ハ、心長ハ、
心長ハ、心長ハ、心長ハ、

續河大綱之類は七条の時所と
きりて甲列しむか候に百石
合子或百石候ひ申上性候由
以命とて是書向初。寛永
二年行と路の衣大綱之類
信書と京紙ふとひく而存。
日九年大綱之類腹圍とら
れは若梅葉丹後とて四領け
常候小村とて丹後とて在示

小紙を口千に人の四領は先江
戸へ出小書初有と書と下
及小紙。口千又年二月二日
死す年と書小紙川と書量候葉

丹後とて成書とて下と書

叔父國友と書とて口千と書長に
年九月廿九日由陽向とてりく

正興
初書

白鳥の母は氏内者なり。改元。
日吉月十八日之夜、（？）初之
沙書院也。明應元年十月廿日
宗廟八月廿九日武百儀。日三
年八月廿日宗廟。延元元年
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。

白鳥の母は氏内者なり。改元。
日吉月十八日之夜、（？）初之
沙書院也。明應元年十月廿日
宗廟八月廿九日武百儀。日三
年八月廿日宗廟。延元元年
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。
十月廿日。百儀。百儀。百儀。百儀。

院由組次。同元年六月廿六日。經
 終。享保二年二月廿一日。吳大目射
 〇同元年七月廿一日。法地改。及
 〇同元年八月。而免。同十七年
 八月。又。死。十八年。同。年。

正具正者。ね。願。の。中。書。行。為。

- 一 漢陽之 常書院藏 同西景一 幅
- 一 茅小仍 同 同西景地 一 枚
- 一 爲美蓉 同 日 唐紙 一 枚
- 一 冠 同 日 日 一 枚
- 一 國公安穩 同 同西景 一 枚
- 一 枯木花 同 同西景 一 枚
- 一 白龍丹 同 同西景 一 枚
- 一 人丸 同 同西景 一 枚

正貞

正貞 正徳

文徳十四年三月廿二日初生。享保十七年七月八日卒。享年十九年七月六日死。早稲田寺に葬。

大塚 宗一

正芳

享保十九年七月九日家督。是保元年七月八日南院宗一に

正新

宝暦七年七月廿七日死。年八歳。東門寺に葬。

正敏

伊豆坊 末島 一輝

初生

享保二十一年

宝暦七年七月八日急養子。享保二十二年四月九日出家。安永八年十月八日病歿。享保二十二年八月廿日葬。○大塚宗一八五七十一月

正福

求子 熊吉師 西之助

安永九年八月廿五日家督。天明
二年二月廿二日為在由之儀書
○寛政三年四月廿五日在由之儀
○日九年八月廿二日在由之儀

正脩十カ

大孫 市力 熊吉師

二ノ四ノ教ノ子
寛政九年八月廿二日家督

淡路 越前 一 一

淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一

淡路 越前 一 一

淡路

越前

淡路

越前

淡路

越前

淡路

淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一
淡路 越前 一 一

十二年七月因患疾相授武百石
合六百石。正徳三年六月病免
。享保五年六月廿六日病免。
之文三年六月廿二日死或列卷
此致後世也

忠

八節在集 忠義 乞計
寶水心以百石相授。

享保五年六月廿六日病免。交
二年六月廿一日病免。忠性但
。正保三年六月廿六日病免。以
七月十八日病免。正保三年六月
廿六日病免。有南寺何法儀与
一

忠

八節在集 忠義
享保五年七月十八日病免。建享

今一々之り死日年之葉

女流御

名有

美名所の男
百三十三之百長

子孫傳の頃年十百百

初見

...

大猷院殿

内友

友京班

友及之相

内友之友女京班之男

長

重長

孝安二年九月百新規也
書後由之百傳。日本丸

附。延喜元年。病免。以六年七月廿六日死。清原朝光四年。小葬。

重孝

在之部

延喜六年。同甲。二月。葬。以六年三月廿九日大津。安永元年。二月九日死。以葬。

忠改

在之部

英。年。長次男。元禄十一年。二月。葬。以二年六月廿九日。初。安永元年。二月廿七日。家督。二。德。二。以七月。隱居。以六年七月十三日死。以葬。

寧信

平次郎

實 鶴見左衛門尉 平次郎
延元元年六月十二日 御書
○同元年七月十二日 御書
保元元年九月十二日 御書
○同元年十二月十二日 御書
集賢院書。至曆六年九月
十日 延元元年九月十二日 御書

秀雄

忠實卿 平次郎

至曆六年七月十二日 御書
○同元年八月十二日 御書
○同元年九月十二日 御書
○同元年十月十二日 御書
○同元年十一月十二日 御書
○同元年十二月十二日 御書
○同元年正月十二日 御書
○同元年二月十二日 御書
○同元年三月十二日 御書
○同元年四月十二日 御書
○同元年五月十二日 御書
○同元年六月十二日 御書
○同元年七月十二日 御書
○同元年八月十二日 御書
○同元年九月十二日 御書
○同元年十月十二日 御書
○同元年十一月十二日 御書
○同元年十二月十二日 御書

忠孝

忠孝 理十師 忠孝

忠孝 平之也

五竹堂年十二月庚子日

日七〇二月廿七日

忠孝

東照堂

因友 平氏松平

者系姓 平氏

三七〇石

在彼 平氏

松平次郎右衛門尉光親

平氏

忠就

三列小

東照堂

中前よりつたはる事ありて
 之をとりしりては流の
 へは加か友より流流と親
 暫滞留大草松倉伊豆身一
 接の節流流のりて戦死
 永禄元年日也
 東照宮ありて年々の
 功載

東及

内藤
 久太郎

父之流討死りて長六知りて母方
 祖父同友流流を討つた者有
 十位兼村村加流流を討つた者有
 名性隆殿(古也)是也中流流流流
 之流流流流流流流流流流流
 東照宮へは流流流流流流流流流流

未之百餘。收公。至永元年十二
月廿一日。小姓組。享保九年十一
月廿六日。元應。享保九年六月廿
九日。山書院。由。享保二年
十月八日。元中。元池。元中。元中

求与橙之助

夫 田友外記 正芳男

改利

元文二年八月廿六日。養子。元
保元年十月廿六日。家督。同。三年
三月廿八日。初。元中。八月十九日
九月。小姓組。元享三年八月
十七日。初。元中。元中。元中。元中
元中。元中。元中。元中。元中。元中

改解

元中。元中。元中。元中。元中。元中

三月廿六日初見。西和三年八月廿日
向林田書信所。西和三年六月
九日初見。西和三年八月廿一日信所
○文化元年十一月九日

法元馬 飛在

改身

美 弟津子祝田貞次男
西和三年二月廿三日信所
○西和三年八月廿一日信所
三月廿六日初見。西和三年八月廿日

中姓組

東照天皇御代

同友 左衛門

高石

源姓

家紋

別表

七葉の友在表同字

同友 藤原高石

藤原

改

赤松氏 高石 没落 浪人

切あつと秀頼被使織田九門
 道原又と清法陣と廻巡して
 秀頼小巻く山崎と力平
 勝とかへ頼久之元和元年育
 六日大坂再取の長尾村長門と
 山崎と力平と率て
 大尾田下と山崎と奇功也
 戦死千一系

車伝

勝と清 始末福寺禪傍

元和元年初くは所不之也
 將軍家より命を候之承取
 命を以てしを依法并清法
 ちと完にまひりて清法の力も
 秀と授けしは且と井大能取
 梅原丹波守も力も刀遣と
 元和元年下総白井取とひり

京都清光
 山崎院殿
 三月廿七日
 正保二年九月十日
 大角之権
 奉之三月十日

勝と清直伝

知行をなす事

傳在馬

長教

東照宮祖父没をうと志願しありて
少小のころに父を道に度長十九
年九月廿二日お湯とせりて
大坂の山原に奉。在傳日記
と有る。道長は命をうける際
加藤のりて八石石となす。

万治二年八月廿三日没とあり
死に香ありて年以蘇

八石馬

長馬

寛永元年正月十日初見とあり
万治二年八月廿三日没とあり

傳在馬

長教

万治二年八月廿三日没とあり

保元八年八月廿八日死。享年八十八。葬于...

吳覺

傳之

左記

... 保元八年十一月廿一日在信... 大和元年... 享年七十八... 保元七年十一月廿一日在信... 享年七十八...

品如

收之

... 保元八年十一月廿一日在信... 享年七十八... 保元七年十一月廿一日在信... 享年七十八...

品俊

傳之

... 實心口者人師... 享保十一年十一月廿一日在信... 享年七十八...

十二年四月一日清書院由。至
 曆十三年九月八日及補改。明
 和八年二月十三日之方也細多
 〇あはた元年十月廿日也私子。
 天明元年九月九日法草の物へ
 若君初之成。好ら道同年十一
 月廿日初夜之とひく可指之。
 同平也月廿七日死年三歳日
 奇小葬火

品名

竹九節

夫久保十玄活時廣三男
 寛延元年九月廿日年養子。
 至曆十三年二月十八日而死
 性粗。明和八年八月廿三日死
 年八歳日年一歳

品名

万之助

〇あはた元年十月廿日也私子。
 天明元年九月九日法草の物へ
 若君初之成。好ら道同年十一
 月廿日初夜之とひく可指之。
 同平也月廿七日死年三歳日
 奇小葬火

冥品 長子

元和六年六月廿二日嫡孫取祖
○月○九月甲午有初見。女永年
六月十一日死年十八歲以年以葬

周防守 徳左衛門

権佐

天保三年七月廿日官孫取祖衣
絡。寛政六年八月廿六日宗
納戸。○月○九月廿六日宗
○月七年正月十日音淡系名師

清成島村河内指三。○月年行
有少令出流。○月八年十月九日
叙舞。○月九月二十日海日而凡
宗納戸。○月九年九月九日宗
性

長松院

長松院... 長松院... 長松院... 長松院... 長松院...

長松院

因友

若原姓

長松

長松院

因友... 長松院...

長松院... 長松院...

忠

長松院... 長松院...

長松院... 長松院...

二首

陳休奉^レ行^レ佛^レ後^レお^レ列^レふを
ひく^レ言^レ石^レゆ^レ。い^レの^レ言^レ早
大猷院^レ叙^レし七^レ条^レの^レ時^レ時^レ護^レ叙。
口^レ年^レ年^レ六月^レ日^レ官^レ大^レ坂^レ行^レ傳^レ書^レと
大猷院^レ叙^レ後^レ兼^レ兼^レ向^レふ^レ紙^レ紙
名^レ傳^レ院^レ叙^レ行^レ書^レと^レい^レく^レお^レ働^レ以
て^レ感^レあり^レ。え^レお^レ七^レ年^レ叙^レ後^レ千^レ七^レ百
石。口^レ年^レ年^レ一^レ字^レ石^レか^レあり^レ。口^レ日

九年^レ叙^レ後^レ千^レ石^レ合^レと^レ方^レ石。口^レ年^レ
七月^レ日^レ官^レ行^レの^レ傳^レ書^レを^レ文^レ伊^レ合^レ書^レ
。口^レ年^レ叙^レ後^レ千^レ石^レ合^レ或^レ方^レ
石と^レ千^レ石と^レい^レひ^レ西^レ吉^レ院^レ番^レ叙。口^レ日
年^レ口^レ年^レ路^レ休^レ年。口^レ年^レ七月^レ日^レ官^レ
大猷院^レ叙^レ行^レの^レ傳^レ書^レ。口^レ日^レ口^レ存^レ
口^レ日^レ口^レ條^レ口^レ城^レ行^レ年^レの^レ時^レ
大猷院^レ叙^レ後^レ千^レ石^レ合^レ或^レ方^レの^レ傳^レ書^レ
口^レ年^レ口^レ年^レの^レ列^レ傳^レ書^レと^レい^レく^レ口^レ日^レ

年次月日遺存白銀千枚。
○甲午年志別名財庫地下に
加積ありしもの三方あり余余
○甲午年六月廿日
大猷院教行の諸方初を新小社
尾名換田一町迄あり供奉
○甲午年春
大猷院教行の諸方初を新小社
神威ありありに馬となす。

甲午年二月八日
志摩ちりあなむ。○白銀元
年次月日遺存白銀千枚。
大猷院教行の諸方初を新小社
○甲午年志別名財庫地下に
加積ありしもの三方あり余余
○甲午年六月廿日
大猷院教行の諸方初を新小社
尾名換田一町迄あり供奉
○甲午年春
大猷院教行の諸方初を新小社
神威ありありに馬となす。

平泉公死之日公氣神田春日
町平泉信之

忠節 忠節

忠節

後發 寬永元年四月廿八日初見。八月
年夜瘧疾。八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
師。藤原氏。本。信。長。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。

年十一月廿八日叙爵。忠節。年八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。
八月廿三日。八月廿三日。八月廿三日。

○延喜元年七月廿五日所為
明少少少少少死年七歳
西志年々々々

志麻弓 志麻郎

忠

万治元年十二月八日叙爵志麻
弓。病氣嫡子延方。延喜元
年六月廿二日死。石川
延方

忠

和泉守

次男延方。延喜十一年十二月廿
八日叙爵。延喜元年九月廿日
在督父那の通二万三石余方
同之男伊織忠知(武平石余方
令守)死。日八年六月廿二日
少少少

卷五院叙法事勅書在場不

少くは心永井信濃守尚書と
殺害とて道ふらるるに浦志摩
より出頭あり翌年七月十日松平宗
将も龍崎宗直のいづく切腹侍
り此城地よりいづくに絶衆二
十七又口年不葉

伊織 虎之助

享保元年九月廿一日式部省知

忠美

乃系和泉守忠房家絶父虎孫与
忠房名孫武千石と云ふ事とて
合ふ事あり。享保二年四月其
二月死守と云ふ事とて小葉

忠右衛門 教子 伊織

忠平 休養

享保元年八月廿九日初見。以て
四月二日家持。延享二年閏三

忠美

早川日守性祖。自年十月廿日
中納言。以○壬午九月布衣
。至曆六年六月廿一日病免。○早
年六月九日隱居。將西來三石依
於佐乃科了。○女永子
七月廿七日死。年六十九。寺山藏

子
後
初
馬
對
馬
對
後

實 女納言所任共三男
。意延三年六月廿六日輝養子
。室曆三年三月九日初之。○子
。自其六月以中納言。○自年七月有
。行小姓。○自年十二月八日叙舞亮
。彈守。○自年八月廿八日中納言
。○自六年同月十九日行小姓。
。同年六月九日有少侍。○自年青
。十二日有丸。○行後使。○在止名

侍依。日本十一月に日比本性
。宝暦五年六月其時有日六
月八日諸賢令老く是日七
十月廿九あり。日比本性
侍依。或るお願。日本
八月に日比本性。同二年
五月日通し成り。日比本性
。其の旨中。日比本性。日比本性
。日比本性。日比本性。日比本性

をひく大の旨中。日比本性。日比本性
。日本十一月日比本性

者。本性。日比本性。日本十一月日比本性
。日比本性。日比本性。日比本性
。同年十一月日比本性。日比本性
。日比本性。日比本性。日比本性
。日比本性。日比本性。日比本性

年十一月日比本性。日比本性。日比本性
。日比本性。日比本性。日比本性

文正五年四月五日。日比本性。日比本性

忠實

古之州 教馬 奉事

安永六年二月九日初見。天明三
年十二月廿日在信。日永年十二
月廿九日在信。天明二年
九月廿日在信。天明二年
八月廿日在信。天明二年
七月廿日在信。天明二年
六月廿日在信。天明二年
五月廿日在信。天明二年
四月廿日在信。天明二年
三月廿日在信。天明二年
二月廿日在信。天明二年
一月廿日在信。天明二年

東照宮時代

因友

友系姓

古昔の縁

友系 中り者凡
六七の桐

因友古遠義法次男古系

忠卿云代

清久

奉事

東照宮時代文書前列を以て

町奉行。天保六年死

忠久

公九郎

東照太子代沙汰の御方。慶長
十一年巳月廿七日死。清康連久年
小孫

忠右

公九郎

平郎

名無代。代奉仕。父忠久知方

一之。病死。分ち。石。月。名。百
石。月。一。道。六。石。名。坊。ひ。石。花。加
伊。香。比。心。名。新

十郎九郎

清九郎

平郎

忠久

忠久御方

元和六年十月十日。取山。中。信。不
石。名。一。道。六。石。名。坊。ひ。石。花。加
小。田。東。山。治。の。名。一。道。六。石。名。坊。ひ。石。花。加

上之と申すは、
山東京の政之河の御中より、
山道中より作敷き道、
飛。貞永六年古道より、
後人持持りし。一七五〇
乃同道雲。一七五〇。廣女元
九月、夜時。日、
人、
知り。山、
死、

百依。意文二年九月、
津城代より、
は百、
死、

心房

十郎丸、

美治元年九月、
延宝元年、
小、

めくれず

上之と申すは、
山東京の海に河の傍中より山嶺あり
山道中より作事して伊豆國大湊へ流
飛。寛永六年古道より山嶺あり或
後人其地あり。同十一年とて七十九
あり。大湊者。慶安元年
九月疫病。同四年中收絶てて百
石餘俵加増とて、或百石餘俵小
なり。山嶺三年十月山嶺加増

百俵。寛文二年九月廿六日結林派
山嶺代より山嶺加増俵百俵在
は百石餘俵小なり。延宝二年十月廿八日
死し寺小築

正房
十郎丸馬 物進

美治元年九月廿四日致山嶺中流
延宝元年表山嶺。天和二年
九月。延宝元年表山嶺。天和二年
九月。延宝元年表山嶺。天和二年

同元年八月朔之間行也。曰年十月
月神御下者也。曰元年十月各
○正徳元年十一月毎日陰曆三十一日依古老
ノ料とたふ。享保二年六月廿日
死いさふ不葬

正儀

十部九部 惣部

美 服部 石丸 爲保 壽次男
元禄十二年六月廿日 吉子。元禄十八

年六月廿日 初見。曰七年六月廿日
神書院為。正徳六年十一月十日 在
○宝曆六年十一月廿日 免役令武校。
曰年六月廿七日 免七指武校口与

十部九部

翻頁

正儀

実 久野 侍 吉子 是 能 次男
元文元年十一月廿日 吉子。元文二年
十一月廿日 免役組。元禄八年

乃有自名信。日本八月十八日
早口氣口年之葬

年九月 時公市

敬志

宝曆十年十一月名信。日十二年
同月二日沙去院由。明和七年
八月十七日先。社系大石割
日八年七月首在藤根中校。
安永七年七月九日死。年九月身与

正朔

十位是馬 田茂助 長助

實 乃居名信馬 主陣次男
安永七年九月六日名信子名信
天保六年八月廿二日 沖書信馬
○實改 同三年九月廿六日 以上 跡付名信
○實改 同四年九月廿二日 以上 大約時信
○實改 同五年九月廿七日 以上 時信
乃村田日 時信

宣和三年六月八日
二牙死日等

衣

宣和三年六月八日
二牙死日等
宣和三年六月八日
二牙死日等
宣和三年六月八日
二牙死日等

衣
宣和三年六月八日

同友

三三三三三

友系姓

友系姓
友系姓
友系姓

同友官系通
同友官系通

忠友三男

仁信坊

忠友三男

忠友

宣和三年初見
宣和三年初見

諸河大領之長長つて其の内府清
。孝永元年十一月八日治曆山とて
布衣三子名

長長の長長法有ふ長長らつて世田
河内とて山預け常別定戸城更
警非之長長法ありて是名長長
至内友志摩とて長長方に在るに戸
長長方治之るありて六月死七千式
長長小長門子長長院とて長長

正階

正階之階 正七階

正階二年八月廿五日信長。正階二
年之信長。信長八年八月廿六日死日
寺とて長長

正則

正則之階 正之助

正則二年八月廿日初見。正則二年
十一月十日家信。正則二年四月廿

各日少書院書。正德三年十月廿
五日病歿。享保十八年九月十日死
享七十九歲。以等以葬。

仁德天皇七世聖德太子之勅

正統天子

正統元年九月廿日初見。室承
平元年六月庚辰。享保八年
二月廿十年。啓勅。皇令。之。役。日
十三年正月廿八日。光。以。依。命。之。凡

甲十八年九月又死。日。言。地。享。之。子
乙。庚。百。死。守。之。承。以。等。以。葬。

仁德天皇 聖德太子

正統

實。因。友。十。之。德。志。如。次。男。

享保十七年七月庚午。日。養。子。之。父
甲。年。乙。月。庚。九。日。以。書。院。由。地。享。元
乙。乙。月。又。死。日。言。大。乙。乙。年。十二
月。廿。日。死。乙。年。乙。月。乙。日。乙。乙。葬。

正史

古史

宝曆八年十月廿六日初見。天の
四年二月七日初見。同年六月
二十日初見。天の初見。

白房

天長湯 控水師

天長九年八月廿六日初見。以八
年十二月廿七日初見。意及之。

天長十年十月廿六日初見。以三
年十二月廿七日初見。以七年之
月廿六日初見。以八年

十一月廿七日初見。以八年
病死歳三十五日。葬法。浄巻。

天長十年十月廿六日初見。

浄巻 一西

右史

左史

山通紙

一枚

山通冊

一枚

石名

古傳紙紋山通中

山通紙

一枚

麻地紙紋

一枚

石名

因府公山通中

山通紙

一枚

古名

大御卷所山通中

詩

一枚

山通紙

一枚

石名

卷山通紙山通中

山通紙

山通紙

山通紙



石心
清代石心石心

Faint, illegible handwritten text in seal script, possibly bleed-through from the reverse side of the page.



